

令和2年度使用中学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名 三次市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実生活とつながりのある事柄をレポートにまとめて報告する活動を取り上げている。例が分かりやすく他教科に生かすことができる。 ○ 批評文を書く活動では、見通しが立てられるよう書き方が分かりやすく下段に示してある。また、学習の振り返りの視点が明確であり、次の学習に繋がりやすい。 ○ 巻末の「学習を広げる」に読み比べたり読み広げたりすることができる教材や資料等を掲載している。また、「文学的な文章を読むために」などの折り込み資料が全学年に示されている。 ○ 説明的文章において、グラフ・表・図が文章記述と関連付けて挿入されている。 ○ 「パネルディスカッション」や「表現のしかたを工夫して書こう」の言語活動例は、例示が分かりやすくイメージしやすい。 ○ 新出漢字について、脚注に行数と本文中での読みを示すだけでなく、教材末と巻末に一覧として用例を示している。意味や用法を理解しておきたい語句もマークとともに示している。 ○ 伝統的な言語文化に関する内容では、第2年で漢詩、第3学年で論語という配置がよく、3年間の配置バランスがよい。
書 写	学図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆の手本が実物大であり、生徒にとっては大変使いやすい。 ○ 主体的に学習に取り組む工夫として、「学習の進め方」の例示や、毛筆から硬筆への学習の流れなど、単元として指導しやすい工夫がある。 ○ 興味・関心を高めるコラムや資料として「書写の窓」が6ページにコンパクトに配置され、適量である。 ○ 発展的な学習資料は7つあり、適量である。 ○ 日常生活と関連付けられた単元数は6つと適量であり、必要なことを分かりやすくまとめている。
社 会 (地理的分 野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を活用し、世界の各州においては「学習テーマ」を、日本の諸地域においては「研究テーマ」を設定し、地域的特色を追究していく問題解決的な学習を展開できる工夫がある。また、他のテーマから地域的特色を捉える「深めよう」もあり、主体的な学びに繋がる工夫があ

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小単元のまとめは、課題との関連性が高いだけでなく、発達の段階に応じた設定になっている。キーワードを用いて説明する、共通点とちがいを説明する、課題を説明する、特色を説明する、などの形になっている。 ○ 地域の特色を捉えるのに適した資料の配置となっている。また、写真・地図・グラフ・図表などの資料の掲載数が多い。 ○ 基礎的な技能を身に付ける「地理スキルアップ」を16カ所設定し、その中に技能を定着させる「ワーク」を設けている。 ○ 調べ学習を進める際の技能を分かりやすく示した「調査の達人」を20カ所掲載している。ウェビングマップ、インターネット、主題図、GIS など様々な調べ学習を紹介している。 ○ 「深めよう」やコラムでは、地理的特色を背景に発達した伝統産業、伝統文化、郷土料理、方言などを取り上げ、歴史的背景と関連付けて考えることができるようにしている。
社会 (歴史的分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各時代の初めの扉ページには、前時代(既習)から続く年表を掲載し、小・中学校での学習内容を色分けし、確認できるようにしている。 ○ 各時代の導入ページは小学校での学習内容で構成されており、学習内容を振り返りながら、時代のイメージを持てるようにしている。 ○ 作業的・体験的な学習の具体例として、「インターネットの活用やウェブページの作成」等のICT教育の実践、「図書室・文書館の利用」等の図書館教育の実践が掲載されており、主体的に学習に取り組む手法として用いることができる。 ○ 各章に調べ学習を行う「調査の達人」を設け、段階的にアクティブラーニングを展開できる工夫がある。(年表、レポート、イラストマップ、新聞、プレゼンテーションの作成等) ○ 巻末に、抽象的な概念や公民での学習事項を「用語解説」として、まとめて掲載している。
社会 (公民的分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 章末の「やってみよう」では、ディベート・模擬投票・模擬国際会議の実施や企画書づくりなどの活動を設定し、多面的・多角的に思考力や公正な判断力を付ける工夫がある。 ○ 持続可能な社会の形成に関わる課題例が適量であり、課題解決の手順も分かりやすい。 ○ 現代社会を捉える具体例として、身近な問題と一般社

		<p>会の問題の両方を取り上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 終章には、公民学習のまとめとしてレポート作成を掲載しているが、「探究を社会参画に繋げる」ことを意識しており、「学びの変革」アクションプランの「学習をアウトプットする」視点と重なる。 ○ 本文の学習をくわしく説明したり関連した内容を取り上げたりした「公民にアクセス」を掲載している。 ○ 章の扉ページに小学校での学習内容を掲載し、振り返りながら円滑に中学校の学習内容に入っていくことができる工夫がある。 ○ 学習のポイントには、生徒が主体となって学習を進める「公民にチャレンジ」があり、模擬裁判・作図・意見交換・グループ協議などの活動を取り入れている。
地 図	帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際に調べる活動等を促す「やってみよう」が47箇所設けられている。 ○ 地図活用の力を意識した「地図をみる目」がある。 ○ 地図の使い方や地域の特色を捉えるポイントを掲載している。 ○ 日本の歴史に関する資料が多く掲載されている。 ○ 地方の地名が詳しく掲載されている。
数 学	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりの考えを見い出す活動を系統的に位置付け、スパイラルな学習としている。導入を踏まえ、1節で立体の一面を扱い、2節で正方形の別な数え方を扱い、3節では活用問題を扱うという展開の工夫がある。 ○ 「学び合い」のページを設け、「個人思考（考え、説明する）→集団思考（説明し合い、気付きを話し合う）→振り返り→深化」する工夫がある。 ○ 巻末（1年生）の「算数のふりかえり」では、小学校の学習のまとめを問題とは別に取り上げている。また、学びをつなぐ活用問題を4ページ設けている。 ○ 当該学年の学習指導要領に示されていない発展的な問題について、単元を基にした活用問題を丁寧な解説とともに5ページ以上にわたり掲載している。 ○ 学習課題を日常的な内容を用い、解決方法として線分図・ことばの式等で表している。 ○ 全学年の1章の章末に、ノートの書き方を示した「数学マイノート」があり、ノートづくりについて分かりやすく説明している。 ○ 各学年の巻頭に「学習の進め方」が掲載されており、集団思考やノートの書き方を含めた問題解決学習の進め方が分かりやすくなっている。

理科	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連のある教科や既習内容を「ふり返り」欄に掲載し、知識や概念の定着を図る工夫がある。 ○ 自然環境の保全に関する話題や資料を多く掲載している。 ○ 日常生活との関連をはかったコラム「ぶれいく time」と、職業との関連を図った読み物「はたらく人に聞いてみよう」がバランスよく紹介されており、生徒の興味・関心を高めることができる。 ○ 「探究のしかた」として、探究の学習の過程が具体例を挙げて示してある。また、生徒の話し合う様子も掲載されており、分かりやすい。 ○ 別冊「マイノート」は、「本冊の観察や実験に関連した内容」と「理解度を確認するチェック・問題」の2部構成になっており、基礎基本の定着を図る工夫となっている。 ○ 話し合い活動の場を「話し合ってみよう」等の見出しで設けている。1年巻末「サイエンス資料」において、理科における話し合いと発表例を示している。
音楽 (一般)	教芸	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材名の上に、学習目標が1点に絞られて明確に提示してある。 ○ 全ての学年の巻頭に、音楽学習MAPがあり、生徒が「何を学習する教材なのか」を確認できたり、教材の系統性やマークの意味を知ることができたりする。 ○ 全学年に「My Voice!」を設け、発達の段階に応じた発声のポイントを示している。 ○ わが国や諸外国の音楽文化では、場面と写真がリンクしており、イメージしやすい。 ○ 西洋音楽の鑑賞教材のページでは、年表が示してあり、その当時の日本の出来事と比較することができる。 ○ 「心通う合唱」として、歌い継がせたい歌曲が多く掲載されている。 ○ 世界の音楽を扱う際に、発展的な学習として、日本の時代とのかかわりを考えさせている。郷土とのかかわりを考えさせることは大切な視点である。
音楽 (器楽合奏)	教芸	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの楽器にふさわしい音色を工夫して表現することに焦点が当てられた目標の示し方になっている。 ○ 合奏曲が、三重奏以上に重点をおいて掲載されており、多彩なアンサンブルに対応することができる。 ○ 和楽器(箏)では、学習展開の工夫として、「さくら」を扱っており、どのような桜なのかをイメージさせた後、イメージに合った奏法を選ばせるといった旋律づくりをしている。生徒がやってみたいと思う構成になっている。 ○ 打楽器(パーカッション)についての基本的・発展的

		<p>な奏法を掲載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「アンサンブルセミナー」では、3段階の手順を示すとともに、学習を進める際の「思考・判断・表現」を行うヒントを吹き出しで示している。
美術	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表現方法の工夫を分かりやすい写真と説明で示したり、色彩の基礎を分かりやすい色遣いで示したりしている。 ○ 日本文化作品が数多く掲載されている。 ○ 発想の仕方について、1年時では、生徒の写真と吹き出しのコメントで示したり生徒の作品の説明文の例を示したりし、2・3年時ではグループで考える視点を分かりやすく示している。 ○ 参考作品をページいっぱいに掲載し、作品の雄大さ、細やかさなどのよさを伝えている。 ○ 「原寸ギャラリー」では、実際の大きさを作品を鑑賞できるようになっている。また、様々な鑑賞の方法を示すために、「比べてみよう」や「美しさの交流」の題材が設定されており、表現と鑑賞の一体化が図られている。
保健体育	大日本	<ul style="list-style-type: none"> ○ 章扉に、各単元で考えていく学習内容に係る問いかけやポイントを構造的に示し、生徒に見通しを持たせている。 ○ 本文中のキーワードが大変見えやすい太字で示されている。 ○ 各章に、雑学的な内容を扱う「トピックス」と、発展的な内容を扱う「トピックス + (プラス)」を掲載し、興味関心を高めている。 ○ 1時間の学習の終末に「学習を活かして」があり、これを用いて「学習のまとめ」を行うことができる。 ○ 環境問題についての小単元を単独で設定している。
技術・家庭 (技術分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小単元ごとに目標が1～2項目あり、一つ一つが簡潔に示されている。単元末の「学習のまとめ」は、3段階の自己評価となっている。また、大切な用語が簡潔に掲載されている。 ○ 実習中に必要な基礎的基本的な技能をまとめた「基礎技能」を掲載し、爪を付け、検索できるようにしている。 ○ 「実習例」では、ものづくりの手順を横の流れの中で、手元が分かりやすい写真を用いて、丁寧な説明をしている。実習例の掲載数も多い。 ○ 単元末に「評価・活用しよう」を掲載し、繰り返し、考えさせる設定での評価・活用の学習を設けている。 ○ 「製作品の設計」では、構想をアイデアだけでなく、機

		<p>能を重視させて具体化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「D」マーク部分では、Web ページから実験動画等を見ることができる。AR ではタブレットを用いて製作品を浮かび上がらせ、回転・拡大・縮小して見ることができる。 ○ 防災・減災に関する技術について、「防災マーク」を付けるとともに、巻末に「防災手帳」を付けている。
技術・家庭 (家庭分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガイダンスとして、小学校家庭科の学習内容との関連や自己評価(「どんな自分になりたいかな」,「学習の進め方」「問題を解決する道筋」)を掲載している。 ○ 「生活の課題と実践」では、課題学習の進め方を内容で統一しているため分かりやすい。まとめや発表の仕方についても、実践が具体的で分かりやすい。 ○ 各内容の章末の「学習のまとめ」では、「ふり返ろう」「確かめよう」「生かそう」の3段階で自己評価できるように構成されている。 ○ 調理実習では、調理の手順を6段階で統一して示し、全て写真を掲載しており、大変分かりやすい。浴衣の着方・たたみ方においても、大変分かりやすい。 ○ 調理・手入れ・製作の基礎技能を、特設ページに写真・イラストで分かりやすく掲載し、爪を付けて検索もしやすい工夫をしている。 ○ 系統的、教科横断的な学びができる工夫がある。(小学校との関連を「小学校マーク」、他教科との関連を「他教科マーク」で示している。他の内容との関連に「リンクマーク」を付けページ数を示している。)
英語	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小单元ごとに、「目標」を「～しよう」と提示し、見通しを持たせるだけでなく、基礎的な学習項目を「Basic Dialog」として表示し、習得すべき到達目標を明確に示している。 ○ 小单元を見開き1ページで示し、左ページには新出事項と基礎的な練習、右ページには、それをまとめた本文の中で用いる構成とし、4技能をバランスよく育成させる工夫がある。 ○ 言語材料の配列については、学年ごとのつなぎの部分で同じ文法事項を重複させて取り扱っており、スパイラルに学ばせることで定着を図らせる工夫がある。 ○ 学習到達度目標の設定については、全学年の巻末に英語で4技能別に例示した「できるようになったこと」リストがあり、自らの学びを振り返ることができるようにしている。

		<p>○ 「協働」として，友だちと意見を交換したり，協力したりして原稿の内容や発表をよりよいものにする協働的な学習を随所に設定している。</p>
--	--	--